

日曜大殿説教

「慈悲の光につつまれて」

平成二十二年八月十五日(日)午前九時 於大本山増上寺大殿

天然寺住職 後藤 尚孝

一、宗祖法然上人のおことば

念仏はこれ弥陀の本願の行なるがゆえに、成仏の光明かえりて本地の誓願ほんじを信ずる、眞実信心をえたる信者をてらしたもうなり。

お念仏は阿弥陀さまの本願の行ですから、仏となられた阿弥陀さまが放たれる救いの光明は、阿弥陀さまが誓われた本願を信じ、まことの信心をもってお念仏を称える人を照らして下さるのです。

いま極樂をもとむる人は、本願の念仏を行じて攝取せつしゆの光明にてらされんとおもうべし。これにつけても念仏大切に候。よくよく申したもうべし。

今、極樂往生を願う人たちは、本願に誓われたお念仏を称えて阿弥陀さまの救いの光明に照らしていただくと思ふべきです。だからこそお念仏は大切なのです。心をこめてお称え下さい。

弥陀の本願を決定成就けつじょうじょうじゆして、極楽世界を莊嚴しょうごんしたてて、御目を見まわして、わが名をとなうる人やあると御覽ごらんし、御耳をかたぶけて、わが名を称する者やあると、夜昼よひるひきこしめさるるなり。されば一称も一念も阿弥陀仏に知られまいらせずという事なし。されば摂取せつしゆの光明はわが身をすて給たまう事なく、臨終りんじゆうの来迎はむなしき事なきなり。

阿弥陀さまはその本願のお誓いを成就し、極楽世界をつくりあげられました。そして、その御目を見まわして、我が名を称える者はいないだろうかと御覧になり、御耳を傾けて、我が名を呼ぶ者はいないだろうかと、昼も夜もお聞きになられているのです。それ故、たつたひと声のお念仏であつても、阿弥陀さまがお気付き下されないことなどありません。それ程までにして極楽に救とい撮とうとする阿弥陀さまの光明が、あなた一人をお捨てになるはずはなく、臨終に來迎されることが偽りであらうはずもありません。

二、保護司の活動

- (一) 対象者の救済
- (二) 対象者の就職活動
- (三) 被害者の支援
- (四) 愛ある活動と慈悲の精神

三、阿弥陀さまの精神に基づいた救済活動

四、阿弥陀さまの救い